

The Mille Has Times

2022
SUMMER
VOL.1

開館!! 高らかに 「大いなる秋田」



Pickup!

開館記念式典特別リポート

Interview

佐々木新平さん／記念演奏を振り返って

「大いなる秋田」大ホールに響く 高い音響性能、感動広がる



210人による「大いなる秋田」が記念演奏として披露された

あきた芸術劇場ミルハスの大ホールに「大いなる秋田」が響き渡った。6月5日の開館を記念しての演奏。秋田市出身の佐々木新平さんが指揮し、秋田吹奏楽団と県合唱連盟のメンバー210人が演奏、合唱した。演奏は記念式典招待者400人に加え、一般応募で当選した県民400人も鑑賞した。

大ホールのお披露目も兼ねた記念演奏に関係者からは熱い視線が注がれていたが、高い音響性能と舞台設備を併せ持つ大ホールの特徴が十分に発揮され、「大いなる秋田」の魅力が聴衆に存分に伝わった。演奏終了後には、大ホールは大きな拍手に包まれた。

聴衆からは「『大いなる秋田』の生演奏を初めて聴いた。ホールの音響も素晴らしく、感動した」「この日にかける出演者の思いが伝わってくるような公演で、涙がでそうだった」などの声が聞かれた。

演奏した秋田吹奏楽団の中村晃悦団長は「大ホールに聴衆が入って初のステージ。音を出した時、感激のあまり涙があふれ

た。団員は少し緊張していた様子だったが、悔いのない演奏ができたのではないかな。いい記念になった」と話した。秋田大付属合唱部の鈴木彩花部長（3年）は「出演が決まったときはみんな喜び、練習を重ねてきた。ホールは響きがよく、気持ちよく歌えた。これからも機会があればミ

ルハスで歌ってみたい」と話した。

大、中、小ホールは9月上旬までスタッフの技術習得期間に充てられ、グランドオープンには9月23日。大ホールでは新日本フィルハーモニー交響楽団とピアニストの小山実稚恵さんが共演する。



演奏終了後、拍手を送る観覧者

重責を果たし安堵

『佐々木新平さん（指揮者）』

—記念演奏を振り返って。

大ホールでの初めての演奏会という重責を、オール秋田の出演者とともに果たすことができ、ほっとしている。すべての出演者が秋田への思い、あきた芸術劇場への思いを込めた演奏になったと思う。

—リハーサルを3回（5月22日、6月4日、6月5日本番直前）実施したが、リハーサルを重ねることで、どんな変化がみられたか。

歴史ある作品には、その時々事情（演奏レベルや演奏環境）がそのまま伝統という名で良くも悪くも継承されていることがある。それを楽譜を正しく見返すことで50年以上演奏されてきた「大いなる秋

田」について慣習を改めることに力を入れた。それと同時に進行でそれぞれが自分で考え、表現することを促した。演奏者からここはこうしたいという意思が聞かれるようになってきた。

—大ホールへの感想は。

これからの芸術文化を育ててくれるホールだと思った。繊細な表現まで余すことなくホール全体に伝わる。そんな表現を出演者は要求され、それが表現力の向上につながるだろう。バックヤードも広くあらゆる公演に対応できるのも魅力。

—ミルハスに期待することは。

大きく三つある。第一に貸館としての機能が充実しているので、あらゆる公演を積

極的に誘致してほしい。第二にプロの団体による定期公演の開催。ツアーではなく、定期的にプロの芸術に触れる機会ができればと思う。第三はジュニア育成の機会を創出すること。吹奏楽、演劇、伝統芸能などホール主催で子どもたちをはぐくむ場を提供することで、子育て支援、魅力ある街づくりにもつながる。



記念演奏で指揮を務めた佐々木新平さん

文化芸術拠点の門出祝う 華やかに「秋田音頭」



会場を盛り上げた「秋田音頭」

愛され、親しまれる劇場に



くす玉を開披し開館を祝った

ミルハス開館記念式典が6月5日、中ホールで開かれ、県や秋田市、県内文化団体など関係者ら約400人が、秋田の新たな文化芸術の創造拠点の門出を祝った。

佐竹敬久知事が「ミルハスが本県文化の殿堂の名にふさわしく、将来にわたり県民の創造活動の場として、また人が集い交流する場として多くの方々に愛され、親しまれる施設となることを切に願う」、穂積志市長が「ミルハスは県民会館と市文化会館の機能を継承し、文化芸術に親しんでもらう最高の舞台を目指した。千秋公園一帯の芸術文化ゾーンが、まちの魅力向上と中心市街地の活性化に一層寄与するものと確信している」とあいさつした。

建設工事の共同企業体などに感謝状を贈呈。黒色の背景に金色や銀色で竿燈まつり、ツツジ、ハスを

あしらった緞帳を披露した。最後に関係者がくす玉を開披し、劇場の開館を祝った。

式典に花を添えたのが由利高校民謡部による記念公演。1～3年生の部員24人が「秋田大黒舞」「秋田音頭」をにぎにぎしく演じ、会場を大いに盛り上げた。

同部部長の大庭琴美さん（3年）は「すごく緊張したが、会場の皆さんの手拍子で落ち着くことができた。コロナ禍で活動が限られる中、記念すべき舞台で楽しく演じられてうれしい。次は大ホールのステージに立ちたい」と声を弾ませた。

顧問の大井景子教諭は「『秋田大黒舞』と『秋田音頭』は由利高のおはこ。生き生きとしていて、いい出来だった」と、晴れ舞台を堂々と務めた部員たちをたたえた。



来館者の目を引いた大きな花のモニュメント。写真を撮る姿も見られた

花のモニュメント ミルハス彩る

～高さ3.5m、花マイスター秋田会制作～

開館記念式典では1階総合案内前に大きな花のモニュメントが飾られ、来館者を出迎えた。

モニュメントは高さ3.5m、幅1.8m、奥行き3.6m。新緑と千秋公園をイメージし、枝物のドウダンツツジとナツハゼに、グロリオサ、オンシジューム、「ミルハス」の由来であるハスなどを組み合わせた。花マイスター秋田会（吉川悟会長）の会員9人が約5時間かけて制作した。

作品名「待ち望む」には、ミルハスの完成を心待ちにしていた思いと、今後さまざまなアーティストの公演が開かれることへの期待を込めた。

大きく、華やかなモニュメントはインパクト十分。多くの来館者の目を引き、写真を撮る姿も見られた。

中ホールミッドホールの緞帳 「みのり」を披露

竿燈まつりなど
デザイン

中ホールの緞帳が6月5日の開館記念式典で披露された。秋田銀行から寄贈された緞帳は「みのり」と題し、竿燈まつりをメインに秋田らしさを表現したデザインとなっている。

緞帳は縦10_{メートル}、横18_{メートル}で、重量は約900_{キログラム}。西陣本綴錦織で織られている。中ホールの黒色の内装に調和した黒色の背景で、「竿燈まつり」を金色でにぎやかに、千秋公園をイ

メージしたハスとツツジを銀色でちりばめている。人が集う場にふさわしい祭りをテーマに、秋田らしさや親しみを感じられる。

京都市の龍村美術織物が制作した。

緞帳は9月23日のグランドオープン以降、催しや公演の前後などに目にすることになる。



「竿燈まつり」などがデザインされた緞帳

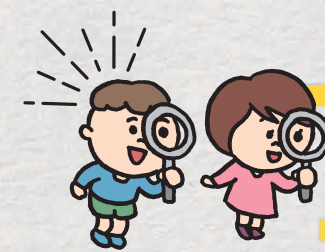
気軽にピアノ弾いて エントランスロビーに設置

エントランスロビーにアップライトピアノが設置されている。北都銀行から寄贈されたピアノで誰でも気軽に弾くことができる。

ピアノは河合楽器製作所の「K-200」で高さ114_{センチメートル}、幅149_{センチメートル}、奥行き57_{センチメートル}。街角に設置し、自由に弾ける「ストリートピアノ」が人気を集めていることから、ミルハスでも多くの人に音楽に親しんでほしいとして寄贈された。



エントランスロビーに設置されたアップライトピアノ



ミルハスの舞台裏に ズームイン!

ミルハスは高い音響性能とステージ機能を併せ持つ大ホール、幅広い舞台芸術活動の拠点となる中ホールなどを備える。普段、一般来館者は立ち入ることのできない両ホールの“裏側”をご紹介します。

浮雲外観



浮雲上部

照明を点灯した「浮雲」の上部。浮雲は大ホール客席の天井に設置している（写真左は1階席から見た浮雲）。

シーリング
スポット
ライト



浮雲の上部にずらりと並ぶシーリングスポットライト。出演者の顔を見やすくする効果などがある。

音響調整室
調光調整室



各種機器を備えた大ホールの音響調整室（手前）と調光調整室。中ホールにも両室が設けられている。

大ホール
舞台前の
床下



大ホール舞台前の客席の床下。右側がオーケストラピット、左側が客席格納庫。

小ぜり



中ホール舞台下の奈落にある小ぜり。出演者などを舞台上に上げ下げする。

Mille Has information

9/24 SAT · 25 SUN 徳永英明スペシャルコンサート

グランドオープン記念 会場：あきた芸術劇場ミルハス（大ホール）

ミルハスのグランドオープン記念として9月24、25の両日、大ホールで徳永英明さんの「プレミアムアコースティックコンサート2022」（主催・ノースロードミュージック、共催・あきた芸術劇場ミルハス）が開かれる。徳永さんは、秋田でこれまでもステージを繰り広げており、秋田には熱い思いを持っているとのこと。

今回のコンサートは、ミルハスのグランドオープンのためだけに開かれる特別なコンサート。秋田市のアトリオン少年少女合唱団との共演も企画している。ファン必見のコンサートとなること間違いなしである。

徳永さんは1986年、ファーストシングル「レイニーブルー」、ファーストアルバム「Girl」をリリース。「輝きながら…」「壊れかけのRadio」などのヒット曲や、カバーアルバム「ヴォーカリスト」シリーズでも知られる。

24日は開場午後5時、開演同6時。25日は開場午後3時、開演同4時。チケットは両日とも全席指定でSS指定席11000円、指定席8800円（いずれも税込み）。発売日や発売方法など詳細についてはノースロードミュージックのホームページで。



徳永英明さん



芸術、文化は何のためにあるのか。生きる力になっているのか。根源的な問題である。あきた芸術劇場ミルハスの仕事にかかわるようになり、県民、市民にどう貢献できるかをいつも考えるようになった。だが、なかなか答えは導き出せない▼「鬼平犯科帳」で知られる作家池波正太郎さんの

エッセー集「男の作法」にある文章に、刺激を受けた。池波さんはかつて新国劇の脚本を書いていた時代がある。そのころの話である▼池波さんによれば、新国劇を観て自殺を思いとどまった人は数え切れないほどいた。「その舞台を観ているとだね、（ああ、またもう一度、この劇団の芝居を観に来るために、死なないで働こう…）」と、いう気持ちになるわけだよ。舞台を観るだけでも自殺を思いとどまらせるというちからがあったということですよ▼生きていけば嫌なこと、面白くないこと、思い通りにいかないこともままある。そんな時に、演劇や音楽や舞踊など芸術文化が生きる力になるはずである。池波さんの文章か

らそう感じた▼ミルハスは9月23日のグランドオープン以降、クラシック、ロック、ポップスなどのコンサートのほか、ミュージカル、バレエ、演劇などの公演が予定されている。すでにチケットが販売されている催し物もある。県民からの問い合わせも多い。職員一同、作業に追われながらも、うれしい悲鳴を上げている。▼県民の皆さま、ぜひ一度ミルハスへ足を運んでください。そして「また来たい。そのために一生懸命働こう」と思ってもらえれば、劇場に携わる者としてこんなにうれしいことはありません。そんな思いを持ち続けてもらうことができるように、魅力的な企画をどんどん打ち出していきます。



あきた芸術劇場
Akita Arts theatre
ミルハス

Mille Has

<発行>あきた芸術劇場ミルハス
〒010-0875 秋田市千秋明徳町2番52号
TEL.018-838-5822 FAX.018-838-5825
E-mail/info@akiat.jp https://akiat.jp

